

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	I290800174		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	令4年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 看護師を配置している。入居者様の健康状態の把握や家族様や医療機関との連携を図っている。
2 入院中の入居様に対しても、退院後支障なく生活ができるように状況を把握している。
3 家族様との関わりで、コロナ禍で面会が制限されている状況でも、リモート面会や電話で対応。日常生活について変化があった場合電話連絡をしている。
4 毎月御家族には写真付きの手紙を送り、日々の様子がわかりやすいよう工夫している。
5 コロナ禍で外出ができない中、施設駐車場を開放し移動販売が訪問に来て下さる。入居者様・地域住民がご利用されている。
6 社内独自のマイスター制度を行い、職員のスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ヒューマンライフケア株式会社が、すべての人を尊重し、いつでも笑顔で触れ合い、互いを思いやり、そつと支えあう「笑顔とところ、いつでも“人”が真ん中。」を原点に置いた施設運営を目指している。「ヒューマンライフケアグループホーム市川」の職員がその想いを共有し、サービスの提供に取り組んでいる施設である。内科の往診が週5日行われていると共に、月3回歯科医による往診が行われており、適切な医療支援がなされている。往診の医療機関とは24時間体制で連携していると共に、施設に常勤の看護師が配置されており、入居者の状態変化に応じた迅速な対応が、入居者や家族の安心に繋がっている。今年度はコロナ禍の為、外出や交流活動は見合わせているが、地域の移動販売の活用・敷地内での園芸活動・施設内でのレクリエーション活動の充実化により、入居者の気分転換や生活活性化を図っている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、事業所としての理念は職員の目につく場所に掲示されており、研修時など改めて振り返りを行う。	「人生の先輩に謙虚な姿勢で臨みます。笑いの絶えない伸び伸びの輪。地域の触れいを大切にします。お話を聞くのが大好きです。季節の移り変わりを大切にします。」という施設理念を掲げている。法人理念・施設理念・運営方針等を施設内に掲示していると共に、研修・会議・申し送りで振り返りを行い、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍でもあり近隣の方々との交流は少なくなっているが、施設内駐車場を開放しリブレ形成が訪問販売を行っている。近隣住民の皆様にもご活用頂いている。	日頃から自治会や地域行事等を通じて、積極的に交流し、地域との繋がりを大切にしている。地域の中学生の職場体験・ボランティアの受け入れ・保育園児との交流等を行っており、入居者の楽しみや生活活性化に繋がっている。昨年度からコロナ禍の為、地域との交流は見合わせているが、週1回地域の移動販売を利用しており、入居者の楽しみに繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住宅街に施設があり、スーパーまでも距離があるため施設内駐車場を開放し買い物ができる環境を作りを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括はじめご家族様にも参加していただき、ご意見を頂き今後の運営に反映できるように努めている。	地域包括支援センター職員・家族等を構成員として2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋がっている。今年度はコロナ禍の為、書面やオンラインを活用して連携を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい	書類提出の際に声を掛けるようにしている。また生活保護の担当者とは密に連絡を取らせていただいている。	市の担当者とは、日頃から業務上の相談や報告を通して、協力体制を構築している。今年度はコロナ禍の為、文書・電話連絡・メールを活用して連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行ないスタッフ全員が理解できるようにしている。また、身体拘束廃止委員会の設置も行なっております。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待と共に定期的な研修を行ない知識や理解を深めています。痣などを発見したすぐに管理者・看護師・ブロック長に報告。記録を残し検討会を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について研修会を行ない、学ぶ機会を持っている。必要な際には活用できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはすべての条項について読み合わせを行ない、その際に出てきた質問等については説明を行ない、理解を得られるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問やお電話にてご意見をうかがっている。職員にも共有し、運営に反映させるようにしております。	面会や電話連絡・運営推進会議を通して、家族から意見・要望等を確認している。挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。その他、手紙や市川便りで日々の状況を伝えており、信頼関係構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングなどで意見交換を行い反映している	定期的に会議やカンファレンスを開催し、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者や法人職員が個別に意見や思いを確認する機会を設ける等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイスター制度を導入し給与への反映・向上に努めている。職員が向上心を持って働けるようなシステムを整備しております。又、面談等を通して話し合いの場を作り問題解決に努めております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は入社以降、本部にて継続的にこなわれております。現場ではOJTシートを活用し取り組んでおります。又、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流ができない状態が続いているがリモートでの研修や活動作りを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約、入居前にご面談を行いながら、コミュニケーションを図っております。ご利用者のご要望などを傾聴して可能な限り対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学や面談時から、ご家族様の要望等の把握に努め、細目に電話連絡を中心に状況報告を行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族様のご要望などを検討してその人のあったサービスを提供しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事に参加して頂いたり、行事などでは職員と入居者様が力合わせて調理や出し物を行うことで、良い関係性づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アットホームな雰囲気づくりと訪問出来る機会作りの増加に努める。来所時は感染防止対策を徹底し、検温・手指消毒を実施。電話・手紙で近況報告させていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・縁者の面会や電話連絡、リモートでの面会を促している。	知人や家族等との交流継続を支援しており、馴染みの関係を大切にしている。現在コロナ禍の為、電話やオンライン面会を活用して、相互の関係を大切にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士がお互いに役割をもちながら関わり合いを持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入電や訪問頂き、悩み・相談などお役に立てられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を観察し、会話やノンバーバルコミュニケーションを大切にし、記録などを基にして、本人の意思や希望を職員間で共有、連絡を図りケア方法について検討している。それぞれに合う個別支援も行う。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も意向や思い・身体状況等の把握に努めており、会議等で検討や確認を行い、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後の日常会話の中からアセスメントシートも活用し、また、ご家族からの情報も参考にしてご本人様の背景、生活歴について理解しより良いサービスに繋がられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助に中で気づいたことや一緒に話をすることで一人一人の心身状態を確認している。記録等で各職員から情報を集め利用者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療連携を図りながら課題に目を向け、職員間で情報収集・共有、話し合いを設けて計画に反映している。	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からの意見確認も行っており、現状に即した支援内容となっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、普段と変わったことや気づいたことは記録に残し、全職員で共通の情報とするとともに経過状況を家族に報告し、必要であれば介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合は相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて活動できる地域資源の把握に努めている。ボランティアの方の受け入れも行っていたがコロナ禍の為中止をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿った受診支援を行っている。受診時には、その方の病状の情報提供を行っている。	週5日の内科医による往診や月3回歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援がなされている。また、希望の医療機関の受診も可能となっている。これらの医療機関とは相互に情報共有や情報交換を行う等、関係構築を図っている。往診の医療機関とは24時間の協力体制が整備されていると共に、施設に常勤の看護師が配置されており、入居者の状態変化に応じた迅速な対応が、入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々のケアの中での変化やバイタルの変化などを看護師に相談し、看護師はその結果によって主治医に相談する体制をとっている。定期受診についても看護師が中心になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当者と密に連絡を取り合い、経過報告を受けたり退院前カンファレンスに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員・施設看護師が状態を把握し、往診医からの情報を基になるべく早い時期からご家族と相談し合い、方向性を話し合っている。	重度化・終末期の対応については、契約時に施設の方針を説明し、意向を確認の上同意を得ている。重度化した場合や終末期は、医師・看護師・職員・家族で支援方法を検討し、出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルと連絡網を作成しており、急変や事故は生時は、そのマニュアルに従って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成しており、そのマニュアルに従って対応している。定期的な防災訓練も繰り返し実施している。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、年2回自主消防避難訓練を実施しており、日中及夜間想定訓練・通報訓練・消火器訓練等を通して、対応方法を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重し、利用者の立場に立った声かけや対応を心がけている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向け、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人一人にのペースに合わせ、その方本位の生活ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限りご自身で行って頂き、できないところは職員が支援をさせて頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせた食事、ご入居者様それぞれに合わせた食事形態での提供をしています。食事の準備や後片付けについては、ご入居者様それぞれが役割を持って行って頂いています。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、やわらか食を導入し、食べやすさや見た目に配慮している。その他、季節に合わせた行事食等も取り入れており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量を全て記録し、チェック・管理をしている。また、排泄回数の記録も行い、水分量が足りているか、毎月体測定を行い、食事が適量摂取出来ているかの把握、検討に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には入居者様自身で行って頂いているが、必要に応じて、介助、見守り、声掛け等を行っている。義歯については、義歯洗浄を使用している。また、必要がある際は歯科往診なども行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握し、都度声掛け、誘導、介助を行っている。また、行動などからも一早くみ取り、介助出来るよう取り組んでいる。	入居者個々の排泄状況や排泄パターン及び水分・食事量を把握した上で、なるべくトイレで排泄が出来るように適切な支援を行っている。日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談し、下剤など使用し調整を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理なく全入居者様が週2回の入浴を楽しんでいる。拒否が強い方は原因を確認しアの統一を図ったり、体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援している。必要に応じて、足浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、昼間の活動の支援をし、精神面での安定を図などし、夜間安心して良眠できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には入居者様が使用する薬の目的や副作用等を周知し、入居者様一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々なアクティビティの提供にて、個々の趣味やお好きな活動を見つけ、気分転換や生活に張りが出るよう提供を行っている。また日々の生活の中で、お好きな・得意な事活動に参加して頂き、役割を持って頂くような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で、なかなか外出出来る機会がなくなったものの、敷地内の園芸や日光浴で外の空気を吸って頂けるように努めている。	日頃から散歩を通して、地域の人達と触れ合う機会を設けている。また、週1回地域の移動販売を活用して、買い物の楽しみを支援している。今年度はコロナ禍の為、外出や交流活動は見合わせているが、敷地内での園芸活動や施設内でのレクリエーション活動の充実化により、入居者の気分転換や生活活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお預かりし、お小遣い帳などで管理をしながら支援などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とご相談をしながらではあるが、ご家族様にお電話をしたいと言われた際は電話して頂いたり、職員とご家族様との連絡の際にお繋ぎするなど、出来る限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、テーブルやソファの配置を変えるなどして、好きな空間で過ごせるよう工夫しているが、、フローアの作り上、おひとりになれるような空間は共用部では難しい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居の際にご家族様に、以前からお使いになられていた家具の持ち込みなどをして頂き、レイアウトも自由に行って頂くため、ご本人様の使い慣れた馴染みのもので、居心地良いお部屋作りを行って頂いている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般において、危険が伴わない限りで対応し、入居者個々の身体機能を維持や向上を目指し、ケアプランに反映させるとともに、プラン外でも、出来る事はして頂きながらに常に見守りを行い、安全に自立した生活の支援ができるよう努力している。		